

平成28年度 防衛大学校卒業式
防衛大学校長式辞

本日、防衛大学校本科第61期学生401名、および理工学研究科、総合安全保障研究科の前期課程と後期課程の学生計76名が所定の課程を修め、卒業のよき日を迎えました。

この中には、日本人と同じ課程を修了したタイ、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、カンボジア、韓国、東ティモールからの留学生諸君が、本科で21名、研究科で8名含まれています。

防衛大学校の全教職員を代表して、すべての卒業生諸君に対して、心からの祝意を表したいと思います。学生諸君、卒業、おめでとう！

本日はまた、卒業生諸君を支えてこられたご家族・ご親族の皆様に対しましても、防衛大学校を代表して心よりお慶びを申し上げます。

この式典に際し、安倍晋三内閣総理大臣、稲田朋美防衛大臣の御臨席を賜りました。これは防衛大学校にとってこの上ない名誉とするところであります。防衛大学校を代表して、衷心より御礼を申し上げます。

また、本日の卒業式には、数多くのご来賓の方々をお迎えすることができました。すべてのご来賓の皆様方に厚く御礼を申し上げます。宇宙飛行士で東京理科大学副学長の向井千秋様には、後ほどご来賓を代表してご祝辞を賜ります。

防大では、2回のホームカミングデーがあり、1回目は卒業43年で卒業式に、2回目は入校60年で入校式にそれぞれお招きしています。本日の卒業式には、昭和49年（1974年）に防大を卒業された第18期の皆さんが多数参列されています。

今日の日本の平和と繁栄は、第18期の防大卒業生の皆さんが、過酷な条件下で厳しい任務と責任を果たされた賜物であります。崇高な使命を見事に完遂されて、本日無事に帰校された第18期の皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。

防大の力の源泉は、智・徳・体を兼ね備えた豊富な人材にあります。学生、留学生、卒業生それぞれの個性は実に多様ですが、防大に対する強烈な愛情と、いざという時の凝集力は実に見事です。これこそが今後の自衛隊のパワーの源泉となります。防大教育の成果に関して、最近私が密かに感動した話をいくつかご紹介したいと思います。

本日卒業する61期学生は、低学年のときに学生間の様々な問題に直面し、ともに真摯な議論を重ねてきた学年であります。そして自主自律を原則とした、より洗練された新たな学生間指導（学生が学生に対して行う指導）へと大きく改革の舵を切る中で、身をもってこれを実践してきた学年であります。幹部自衛官としての人間的土台をどう造るか、それが基本のテーマでした。

つい先日、防大では世界19ヵ国31人の士官候補生を招待し、英語による国際士官候補生会議（ICC）を開催いたしました。防大の学生実行委員長は4学年の山下大貴学生でした。そのとき私は彼に「英語ができないと君たちの命に関わることになる」と話すと、彼は冷静に「私のことはともかくも、部下の命に関わります」と即座に反応したのです。その瞬間、私は防大教育の正しさを実感いたしました。

海外からの留学生のパワーとネットワークも拡充しています。これまで私はタイ、ベトナム、マレーシア、フィリピン、東ティモールなどを公式訪問いたしましたが、いずれの国においても防大卒業生が各国の中核的存在として活躍している姿を見ることができました。それぞれの国で卒業生たちと語り合う機会があり、彼らが防大精神とは何かをめぐって熱く語り、防大で学んだことを一生の誇りであると語る姿を見て、感無量な気持ちにさせられました。

先日、今年で入校から60年を迎える5期生の期生会長の中村雅嘉氏が防大に来られました。その際、私は中村氏に「もし防大生に戻れるとしたら、何をなさりたいですか」とお尋ねしました。氏はその時の答えが十分でなかったからと、数日後に丁寧なお手紙を寄せられました。私の問いに対する中村氏の回答はとても感動的なものでした。「時代背景や諸条件が大きく変わった中で、今一度、昔からの同じ仲間（同期）とともに小原台において汗と涙を共有し、その絆を強固にし、更に確かなものにしてみたい」。つまり、同期の仲間とまた一緒に暮らして絆を深めたい、これが回答でした。

61期生の諸君も何十年後か、いつか中村先輩と同じ気持ちに達する、私はそう確信しています。先日、君たちが低学年のときの防大幹事でもあった岡部陸幕長は、卒業に向けた講話の中で、ご自身の死生観を語りつつ、同じ61期で北アルプスで滑落して亡くなった山岳部の沢辺元俊学生と、彼を助けようとして亡くなった山岳部顧問の小林剛士2等陸曹を忘れるなと諭されました。亡くなったこの2人は、君たちの心の中で永遠に生き続けるでしょう。

結びにあたって、防衛大学校の基礎を築いた防大三恩人の1人、小泉信三先生の次の文章を諸君に贈りたいと思います。

「今日、この国の必要とするものは、学識ある勇者である。一方、学識あるものがしばしば逡巡して決せず、他方、断行の勇氣あるものがしばしば学識を欠くということは、往々免れないところであって、国の不幸はこれより大きいものはない。・・・学識があつて而して勇氣のある人を必要とすること、今日の日本の如く切なる時節はないと申して好かろうと思います」。

時代は違えども、現在にも通用する言葉です。諸君たちは防大で学識ある勇者に成長したはずです。そのプライドを持って、君たちを必要とするこの国と国民、そして世界のために今後とも日夜精励してください。

卒業生諸君、改めて、卒業おめでとう！
将来を諸君たちに託す！

平成29年3月19日
防衛大学校長 國分 良成